

## 「原水爆禁止2020年世界大会」 東広島市長メッセージ

「原水爆禁止2020年世界大会」が開催されるにあたりまして、東広島市民を代表して御挨拶を申し上げます。

広島と長崎に原子爆弾が投下され、多くの尊い命が失われてから、まもなく75年目の日を迎えようとしております。被爆者の高齢化は進み、平均年齢は上昇を続けていますが、今もなお、多くの方々が原爆の後遺症などに苦しんでおられます。この広島、長崎の悲劇を二度と繰り返さないため、未来に向けて、戦争や原爆の悲惨さ、平和の大切さを伝えていくことを、我々は忘れてはなりません。

核兵器禁止条約が採択されてから3年を迎え、署名国・批准国は着実に増えていますが、残念ながらいまだ条約発効には至っていません。条約の早期発効を目指し、「核兵器は廃絶されるべき兵器である」との認識の下、着実に前進するための努力を粘り強く重ねていくことが重要となります。

そのため、昭和60年に「平和・非核兵器都市東広島市宣言」を行った本市といたしましても、引き続き、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を訴え続け、平和行政を推進していかなければならないと考えているところでございます。

本大会では、オンラインにより新型コロナウイルスの世界的な感染拡大と立ち向かいながら、「核兵器のない世界」の達成に向けた熱意あふれる行動が繰り広げられます。こうした活動が世界へ発信され、核兵器の廃絶と平和な世界が早期に実現することを心から願うものでございます。

結びに、本大会の御成功と、関係者並びに御参加の皆様のみすますの御健勝を御祈念申し上げ、私のメッセージといたします。

令和2年8月

東広島市長 高 垣 廣 徳

## 「原水爆禁止 2020 年世界大会」へのメッセージ

核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けて取り組んでおられる皆様方の活動に対し、深く賛同し、心より敬意を表します。

本年、原子爆弾によって30数万人とも言われる尊い命が失われた惨禍から75年、核拡散防止条約（NPT）が発効されてから50年の節目を迎えます。

5年に1度の核拡散防止条約（NPT）再検討会議は、国連本部において本年4月末に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大したことに伴い延期となりました。新型コロナウイルスの全世界的感染拡大（パンデミック）は、改めて国際協力の重要性を再認識する機会となりました。

世界には、今なお、地球を何度も滅ぼせるだけの核兵器が存在しています。人類全体が国や人種・思想の垣根を取り払い、核兵器の廃絶に取り組んでいかなければなりません。

尾道市においても、国際社会の連帯と平和主義の原点に立ち、今後も核兵器の全面撤廃と恒久平和を求め続けてまいります。

結びに、原水爆禁止世界大会の盛会と成功を心よりお祈りし、メッセージといたします。

令和2年7月22日

尾道市長 平谷 祐宏

## メ ッ セ ー ジ

昭和20（1945）年8月6日に広島へ、8月9日に長崎へ原子爆弾が投下され、一瞬にして多くの方が亡くなりました。生き残った被爆者の方は、今もなお苦しみ続けています。また、被爆者の方の高齢化などにより、実体験を通じて原爆の恐ろしさを知る機会も年々減ってきています。

核兵器や大量破壊兵器、そして戦争は、わたしたちのささやかな日常を一瞬にして奪います。失ったものはすぐには戻りません。被爆者や戦争によって人生を奪われた人々の想いを受け継ぎ、平和な世界を築く責務がわたしたちにはあります。

戦後75年を迎え、原水爆禁止2020年世界大会の取り組みを機に、多くの世界の人々や次世代の人々に被爆者の願いが届き、核兵器や大量破壊兵器のない平和で公正な世界、人間としての尊厳が守られた真の意味で平等な世界が実現するよう、一步、一步、地道に着実に進んでいくことを強く願います。

わが大竹市においても、微力ながら平和へのおもいを発信し続け、世界恒久平和の実現に向けて、共に取り組んでいきます。

令和2（2020）年8月

大竹市長 入山欣郎

## メッセージ

被爆県の都市として、75年前の悲しい現実を厳しく受け止め、原爆の悲惨さを強く世界に訴え次の世代に継承するとともに、あらゆる国の核兵器の廃絶と恒久平和を希求していくことが、残された私たちの使命であると考えます。

「非核・平和都市宣言」を決議し、「平和首長会議」に加盟している本市は、引き続き原爆の悲惨さを強く世界に訴え次の世代に継承していくとともに、人類共通の願いである、核兵器の廃絶と世界の恒久平和の実現に向けてさらに取り組みを進めてまいります。

原水爆禁止2020年世界大会が実り多きものとなりますようお祈りいたします。

三原市長職務代理者

三原市副市長 大西英之

「原水爆禁止 2020 年世界大会」が開催されるに当たり、メッセージをお送りします。

今年 2020 年は、広島・長崎への原爆投下、そして国連創設から 75 年の節目に当たります。

「原水爆禁止 2020 年世界大会」において、これまで以上に平和を愛する人々の結束を高め、「核兵器のない平和で公正な世界」の実現に向け、更なる活動の展開が図られますよう期待いたします。

被爆者の核兵器廃絶の願いや決意は、我々一人ひとりの行動により、必ずや全世界、将来の世代へと繋がり、世界恒久平和に結実するものと信じています。

府中町は、非核町宣言を行い、「日本非核宣言自治体協議会」、「平和首長会議」に加盟している町として、これからも平和行政に取り組んでまいります。

最後に、「原水爆禁止 2020 年世界大会」のご成功と、ご参加の皆様のご活躍、ご健勝を心から祈念申し上げます。

令和 2 年 8 月 6 日

府中町長 佐藤 信治